スポーツニッポン　2018年（平成30年）12月15日（土曜日）

来春センバツ21世紀枠推薦9校発表

60年ぶり聖地へ前進

八尾

出場3校は来年1月25日選考委で決定

日本高野連は14日、第91回選抜高校野球大会（来年3月23日から12日間、甲子園）の21世紀枠候補9校を発表した。近畿は1952年夏の甲子園大会で準優勝した八尾（大阪）が選ばれた。同枠で大阪から近畿地区推薦校が選ばれたのは初めて。四国では1900年創部で秋季四国大会4強の富岡西（徳島）が3度目の選出を受けた。出場3校は一般選考29校（神宮大会枠含む）とともに来年1月25日の選考委員会で決まる。

21世紀枠の近畿地区推薦校に選出された八尾ナイン

52年夏準Vの古豪

大阪の高校では初めて近畿地区の推薦校に選ばれた八尾の西浦謙太主将（2年）は緊張した表情で言葉を選んだ。「大阪、近畿を代表して選ばれたと思う。うれしい気持ちの半面、責任を感じているという方が大きい」

1895年創立の伝統校で、野球部は1915年創部。甲子園には春夏合わせて10度出場し、52年夏はエース右腕・木村保（元南海）を擁し準優勝を果たした古豪だ。公立校の例に漏れず、練習環境が恵まれているとは言いがたい。グラウンドは他部と共用で、使えるのは週3日。外野まで使えるのは週に2時間くらいしかないという。午後7時完全下校という制約もある中で工夫をこらし、西浦も「限られているからこそ、素振りやティーの1本を大事にしています」と話す。

指揮官の変革も実りつつある。就任6年目の長田貴史監督(41)は責任ある練習をさせたいという考えから、昨年のチームからメニューを選手たちに考えさせてきた。長打を打てる選手が少ない分、足を絡めた積極的な攻撃を採用し、今夏は強豪ひしめく南大阪大会8強。秋は大阪大会でベスト16に進出した。「正直、力はないが、考えて行動しようという姿は見られる」と成長を認める。

4強入りした59年夏を最後に聖地から遠ざかり、選抜出場なら52年以来67年ぶりとなる。「浮かれることなく、地に足を付けてやろうとミーティングで話しています」と西浦。吉報を信じて、厳しい冬の練習に励む。（石丸　泰士）

メモ

▽**21世紀枠**　甲子園への出場機会を広げるために01年の第73回大会から導入。練習環境などのハンデ克服や地域貢献など戦力以外の要素も加味する。秋季都道府県大会16強（加盟129校以上の場合は32強）以上を条件に全国9地区から1校ずつ候補校として推薦。東（北信越、東海以東）、西（近畿以西）から1校ずつ、残り7校から3校目を選ぶ。

◇21世紀枠地区推薦校◇※清水桜が丘の主な卒業生は清水商時代

地区	①所在地 学校名 ②公私立 ③創立 ④創部	生徒数（女子）部員数（マネジャー）進学率	今秋地区大会成績	甲子園出場	部長 監督（監督出身校）（監督職業）	主な卒業生	推薦理由
北海道	①北海道釧路市 くしろ こりょう ②公 釧路湖陵 ③大2 ④大5	718 （373） 24（2） 100%	北海道大会4強 1—5 札幌第一	なし	奥田　康夫(45) 小田　聖人(35) （大体大） （保健体育科教諭）	蝦名　大也 （釧路市長） 長倉　洋海 （フォトジャーナリスト）	北海道東部屈指の進学校ながら文武両道を実践。地元の少年野球と交流するなど地域貢献も積極的
東北	①宮城県大崎市 ふる かわ ②公 古川 ③明30 ④大10	716 （335） 25（1） 90%	県大会準優勝 東北大会4強 0—10 盛岡大付	なし	藤原　純(42) 茂泉　公己(44) （神奈川大） （英語科教諭）	伊藤宗一郎 （元衆議院議長） さとう宗幸 （シンガーソングライター）	創立122年の伝統校。毎日7時間授業で平日の練習は約2時間の中、今秋57年ぶり東北大会に出場
関東	①茨城県石岡市 いし おか いち ②公 石岡一 ③明43 ④大3	946 （468） 49（3） 80%	県大会4強 4—5 藤代	なし	林　健一郎(44) 川井　政平(44) （国学院大） （国語科教諭）	滝平　二郎 （切り絵作家）	選手は全員地元出身。短時間の練習も工夫をこらし今秋県大会では土浦日大など強豪を次々と撃破
東海	①静岡市清水区 しみず さくら が おか ②公 清水桜が丘 ③平25 ④平25	838 （454） 36（5） 78%	県大会準優勝 東海大会1回戦 4—5 岐阜第一	なし	野間　俊夫(38) 曲田　雄三(35) （名古屋商大） （商業科教諭）	川口　能活 （元サッカー日本代表） 名波　浩 （J1磐田監督、元サッカー日本代表）	曲田監督が「アクティブラーニング」を指導にも導入。自立したチームづくりで今秋東海大会出場
北信越	①福井県あわら市 かな づ ②公 金津 ③昭58 ④昭58	650 （303） 26（4） 100%	県大会準優勝 北信越大会1回戦 0—6 松本第一	なし	紺谷　和弘(31) 斎藤　滋(51) （金沢大） （保健体育科教諭）	堀田　庸元 （作曲家）	練習場所確保が厳しい中2年連続でノーシードから北信越大会出場。昨年に続き今枠に推薦された
近畿	①大阪府八尾市 や お ②公 八尾 ③明28 ④大4	955 （461） 34（4） 99%	府大会5回戦 11—13 港	春6 夏4	大谷　友哉(22) 長田　貴史(41) （筑波大） （保健体育科教諭）	塩川正十郎 （元内閣官房長官） 黒沢　俊夫 （元巨人）	府内屈指の伝統誇る進学校。私学優勢の中、今秋府大会16強進出が評価された。67年ぶり春聖地狙う
中国	①島根県出雲市 ひら た ②公 平田 ③大5 ④昭26	473 （240） 29（2） 85%	県大会準優勝 中国大会1回戦 5—12 崇徳	なし	伊藤　潤(50) 植田　悟(47) （日体大） （保健体育科教諭）	錦織　良成 （映画監督） 佐々木健志 （柔道）	部員不足の中、一丸で練習工夫し今秋中国大会出場。旧平田市唯一の高校として地域にも愛される
四国	①徳島県阿南市 とみ おか にし ②公 富岡西 ③明29 ④明33	724 （404） 42（8） 92%	県大会3位 四国大会4強 3—5 松山聖陵	なし	佐野　純也(29) 小川　浩(57) （国学院大） （国語科教諭）	後藤田正晴 （元内閣官房長官） 旺季志ずか （脚本家）	著名OB多数輩出の名門校。今秋四国大会4強と実力備え3度目の今枠推薦で悲願の初聖地へ前進
九州	①熊本市西区 くま もと にし ②公 熊本西 ③昭49 ④昭50	1038 （467） 40（5） 95%	県大会準優勝 九州大会8強 1—8 日章学園	夏1	上田　謙吾(30) 横手　文彦(42) （西南学院大） （公民科教諭）	立山　真衣 （柔道） 春山りんか （なぎなた）	部員は全員地元中学の軟式出身。練習環境に制約がある中、今秋県大会準優勝し、九州大会に出場

11月に部員死亡事故

〝覚悟〟を持って

〈熊本熊本西〉横手文彦監督は「地に足をつけてやっていきたい。今の人数は44人ですが〝45人〟で戦っていきたい」と話した。秋の熊本大会で準優勝し九州大会8強入り。県推薦校に選ばれた矢先の11月の練習試合中に秋の大会でベンチ入りしていた2年生外野手が頭部に死球を受けた影響で亡くなった。指揮官は「（推薦辞退の）迷いもした」というが部員同士で1週間で4回ものミーティングを実施し野球に取り組む覚悟を再確認した。85年夏以来となる甲子園出場を果たせば、亡き友とともに戦う。

初甲子園チャンス

〈徳島富岡西〉「野球のまち」をうたう阿南市にある進学校が春夏通じて初の甲子園出場に一歩前進。坂本賢哉主将（2年）は「選ばれてから甲子園を意識するのでは遅い。全国レベルを意識しながら練習に取り組みたい」と力を込めた。1896年創立で内閣官房長官を務めた後藤田正晴氏らを輩出した文武両道の伝統校。打撃練習は他部の練習がない大会前の早朝に行われるとあり小川浩監督(58)も「守備重視の野球にならざるを得ない」。同市は07年に「野球のまち阿南構想」を立ち上げており地域一体で吉報を待つ。